



マーケット・ウィークリー(No.333) 【2014年10月20日～10月24日】

情報提供資料

SMAM

＜マーケットレポート No.3,841＞

2014年10月27日

1. 先週の市場動向

【先週の市場の振り返り】

＜株式＞	先々週末 2014/10/17	先週末 2014/10/24	前週比
NYダウ(米国)	16,380.41	16,805.41	2.59%
日経平均株価(日本)	14,532.51	15,291.64	5.22%
DAX指数(ドイツ)	8,850.27	8,987.80	1.55%
FTSE指数(英国)	6,310.29	6,388.73	1.24%
上海総合指数(中国)	2,341.18	2,302.28	▲1.66%
香港ハンセン指数(中国)	23,023.21	23,302.20	1.21%
ASX指数(豪州)	5,271.72	5,412.25	2.67%
＜リート＞	先々週末	先週末	前週比
S&Pグローバルリート指数	167.62	172.56	2.95%
＜債券＞(利回り)(%)	先々週末	先週末	前週差
米国10年国債	2.194	2.269	0.075
日本10年国債	0.476	0.470	▲0.006
ドイツ10年国債	0.859	0.892	0.033
英国10年国債	2.189	2.230	0.041
＜為替＞	先々週末	先週末	前週比
ドル円	106.88	108.16	1.20%
ユーロ円	136.38	137.04	0.48%
ユーロドル	1.2761	1.2671	▲0.71%
豪ドル円	93.46	95.12	1.77%
＜商品＞	先々週末	先週末	前週比
商品(CRB指数)	272.64	270.22	▲0.89%
原油先物価格(WTI)	82.75	81.01	▲2.10%

＜株式＞

米国株は、上昇しました。企業決算は総じて市場予想を上回るものが多く、エボラ出血熱感染拡大の懸念は後退し、株価は反発しました。中古住宅販売件数などの経済指標も市場予想を上回り、米国経済は緩やかな改善が続けていることが確認されたことも、市場の安心感につながりました。

日本株は、大きく上昇しました。前週末の米国の株価の上昇を受けて、大幅高で始まりました。その後もドルに対する円の下落や企業の好決算などから、投資家のリスク回避的な動きは後退しました。減速を示した中国7-9月期GDPの影響も限定的でした。

＜債券＞

米国債は、利回りが上昇しました。経済指標が底堅く、世界的に株価が反発したことなどから、比較的安全な資産に対する需要が弱まり、米国の国債利回り(10年物)は2.2%台後半まで上昇しました。

ドイツ国債は、利回りが小幅に上昇しました。ドイツやユーロ圏の企業景況感が市場予想を上回り改善したことなどから、投資家のリスク回避的な姿勢がやや後退し、利回りが上昇しました。

＜為替＞

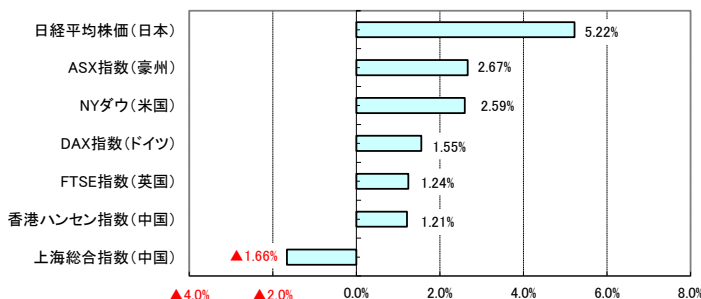
ドル円は、ドルが上昇しました。米国の経済指標は市場の予想を上回ったものが多く見られ、米国の株価も反発したことなどから108円台前半までドルは上昇しました。

ユーロ円は、ユーロが上昇しました。ユーロ圏の経済指標が底堅く、ユーロが円に対して上昇しました。

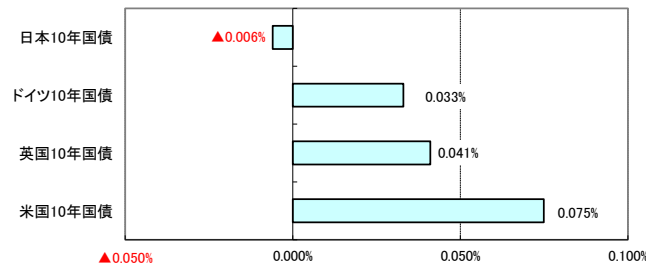
＜商品＞

原油価格は、下落しました。世界的な原油の供給過剰への警戒感が根強く、利益確定の売りが強まりました。

株式(前週比)

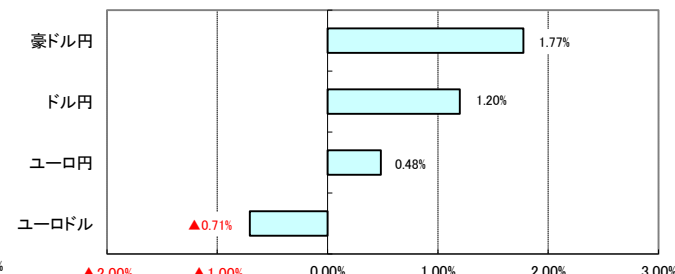


10年国債利回り(前週差)



※利回りの低下は債券価格の上昇を表します。

為替(前週比)



※ユーロドルのプラス表示はユーロ高・ドル安。

(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

当資料の最終ページに重要な注意事項を記載しておりますので、必ずご確認ください。



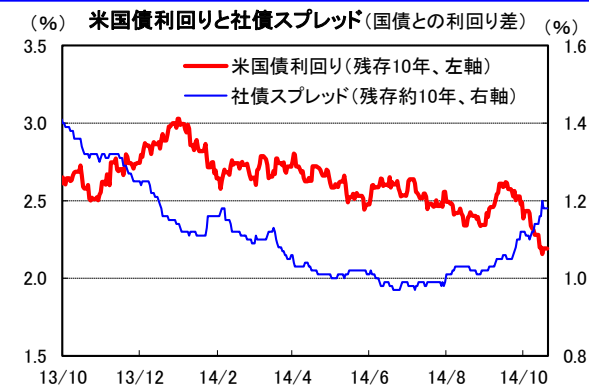
三井住友アセットマネジメント株式会社

2. 先週のマーケット・デیلیー/ウィークリー

	テーマ	ポイント
10/20 (月)	先週のマーケットの振り返り	10/13～10/17のマーケットの振り返り
☆		
10/21 (火)	米国の債券市場の最近の動向(10月)	- 世界経済の減速懸念から米国債の利回りは大幅に低下しました。 - 国債に比べて社債の利回りの低下はそれほどでもなく、社債スプレッド(社債と国債の利回り差)は拡大しました。 - 米国の債券利回りは、当面は低位で推移後、景気回復が進むにつれ、緩やかな上昇圧力がかかるとみられます。 9月の非農業部門雇用者数は20万人超、失業率は5.9%と約6年ぶりに6%を割れ、雇用の改善が続いています。
10/22 (水)	最近の指標から見る米国経済(10月)	- IMFの経済予測やFOMC議事録で世界経済の減速懸念が広がり、株安、ドル安が進みました。 - 世界経済減速の影響が懸念されるものの、米国の緩やかな景気拡大から来年後半の利上げが見込まれます。
☆		
10/23 (木)	最近の指標から見る豪州経済(10月)	- 小売売上高は、今年2月以降は概ね前年同月比+5%台で推移し、底堅く推移しています。 - オーストラリア準備銀行(RBA)は、10月の金融政策会合で政策金利を過去最低の2.5%に据え置きました。 - 物価が落ち着き、景気は底堅く推移する見込みであり、政策金利は当面据え置かれそうです。
10/24 (金)	トルコの金融政策(10月)	- トルコ中央銀行(中銀)は23日、8.25%の1週間物レボ金利などの政策金利を2会合連続で据え置きました。 9月の消費者物価指数は、前年同月比+8.86%と中銀の物価目標である年+5%を大きく上回っています。 - 中銀は物価見通し改善後に政策金利の正常化を再開する見込みです。

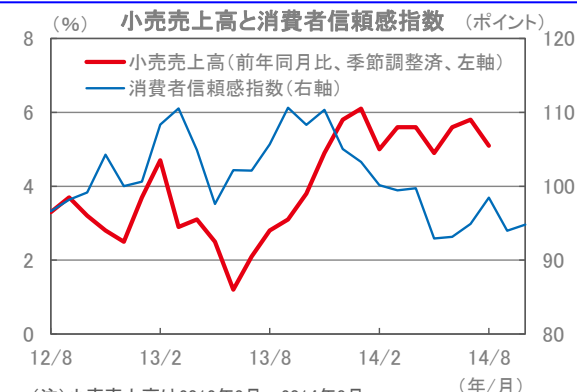
☆先週の市場動向に関連する代表的な「グラフ・図表」

☆10/21【米国の債券市場の最近の動向(2014年10月)】 世界経済の減速懸念から利回りは大幅低下



(注1) データは2013年10月1日～2014年10月20日。(年/月)
(注2) 社債スプレッドはパークレイズ・米国投資適格社債インデックス。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

☆10/23【最近の指標から見る豪州経済(2014年10月)】 景気は個人消費に支えられ底堅く推移



(注) 小売売上高は2012年8月～2014年8月。
消費者信頼感指数は2012年8月～2014年10月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

☆ は右の「グラフ・図表」参照

当資料の最終ページに重要な注意事項を記載しておりますので、必ずご確認ください。



SMAM

マーケット・ウィークリー(No.333) 【2014年10月20日～10月24日】

<マーケットレポート No.3,841>

情報提供資料

2014年10月27日

3. 今週の主な注目材料

日付	米国	日本	欧州	アジア・オセアニア・その他
10/27 (月)	9月中古住宅販売件数		ドイツ10月Ifo景況感指数 ☆	
10/28 (火)	8月S&P/ケース・シラー住宅価格指数 9月耐久財受注 9月製造業受注 10月消費者信頼感指数(コンファレンスボード)	9月商業販売統計 10月中小企業景況判断		
10/29 (水)	連邦公開市場委員会(FOMC、28～29日) ☆	9月鉱工業生産指数		ブラジル金融政策委員会(28～29日開催) ☆ タイ9月貿易統計(30日までに発表予定)
10/30 (木)	7-9月期GDP(速報)		ユーロ圏10月景況感指数 ☆	
10/31 (金)	9月個人所得・支出 10月ミシガン大学消費者信頼感指数(確報)	日銀金融政策決定会合(展望レポートあり) ☆ 9月消費者物価指数 9月住宅着工件数 9月家計調査 9月完全失業率・有効求人倍率	ユーロ圏9月失業率 ユーロ圏10月消費者物価指数(速報)	タイ9月製造業生産指数 メキシコ金融政策決定会合 ☆
☆ 今週の注目点	量的金融緩和終了後の金融政策に関して、FOMC終了後に公表される声明文(29日)に込められるメッセージが注目です。	決定会合にあわせて「展望レポート」が公表される見込みであり、その景気判断の変化に注目です。	一部改善している経済指標もあるなか、ユーロ圏の景況感が注目されます。	足元ではエネルギー価格の下落から物価が落ちついてきており、新興国の金融当局の判断が注目されます。

※各経済指標・イベントは予定であり、変更されることがあります。

先週の注目の「マーケット・デیلیー」

2014年10月21日【デیلیー No.1,973】米国の債券市場の最近の動向(2014年10月) 世界経済の減速懸念から利回りは大幅低下

2014年10月23日【デیلیー No.1,975】最近の指標から見る豪州経済(2014年10月) 景気は個人消費に支えられ底堅く推移

先週の「マーケット・ウィークリー」

2014年10月20日【ウィークリー No.332】先週のマーケットの振り返り(2014/10/13-10/17)

先月の「マーケット・マンスリー」

2014年10月01日【マンスリー No.73】先月のマーケットの振り返り(2014年9月)

先週の注目の「マーケット・キーワード」

2014年10月21日【キーワード No.1,437】ページブック(米国)

弊社マーケットレポート

検索!!

当資料の最終ページに重要な注意事項を記載しておりますので、必ずご確認ください。



三井住友アセットマネジメント株式会社



SMAM

マーケット・ウィークリー(No.333) 【2014年10月20日～10月24日】

<マーケットレポート No.3,841>

情報提供資料

2014年10月27日

【重要な注意事項】

【投資信託商品についてのご注意（リスク、費用）】

●投資信託に係るリスクについて

投資信託の基準価額は、投資信託に組み入れられる有価証券の値動き等（外貨建資産には為替変動もあります。）の影響により上下します。基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

運用の結果として投資信託に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。したがって、投資信託は預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく、一定の投資成果を保証するものでもありません。

●投資信託に係る費用について

ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。

- ◆直接ご負担いただく費用・・・申込手数料 上限3.78%（税込）
 - ・・・換金（解約）手数料 上限1.08%（税込）
 - ・・・信託財産留保額 上限3.50%

- ◆投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用・・・信託報酬 上限年 2.052%（税込）

- ◆その他費用・・・監査費用、有価証券の売買時の手数料、デリバティブ取引等に要する費用（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）、および外国における資産の保管等に要する費用等が信託財産から支払われます。また、投資信託によっては成功報酬が定められており当該成功報酬が信託財産から支払われます。投資信託証券を組み入れる場合には、お客さまが間接的に支払う費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用等に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、運用の状況により変化するため、予めその上限額、計算方法等を具体的には記載できません。

※なお、お客さまにご負担いただく上記費用等の合計額、その上限額および計算方法等は、お客さまの保有期間に応じて異なる等の理由により予め具体的に記載することはできません。

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三井住友アセットマネジメントが運用するすべての投資信託（基準日現在において有価証券届出書を提出済みの未設定の投資信託を含みます。）における、それぞれの費用の最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面等を必ずご覧ください。

●投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

●投資信託は、クローズド期間、国内外の休祭日の取扱い等により、換金等ができないことがありますのでご注意ください。

[2014年4月1日現在]

三井住友アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第399号

加入協会：一般社団法人 投資信託協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。



三井住友アセットマネジメント株式会社